

④ 身近な植物



写真①

以前の記事「意識してみるわくわくする発見があるかも(第12回)」で紹介した「桜が咲くソテツ」はあれから毎年咲いています。この写真は去年のもの(写真①)です。あれから枝が成長し、桜がたくさん咲くようになりました。今年も楽しみにしています。このソテツがある公園には、こ

**教育×笑い = エデュテイメント**

大阪成蹊大准教授 福岡亮治

生活の中に転がるたくさんの学び



②

んな植物(同②)もあります。この植物の名前はシユロ、ヤシの木の仲間です。幹の表面は硬い繊維状のもの(同③④)で覆われています。ここで問題です。この繊維状のものは生活用品として使われています。さて何でしょう？ヒントは「茶色」「学校にあるもの」です。



④

正解は、タワシやホウキ、縄(同⑤)です。この繊維状のものは強度があり、腐りにくいことから生活用品に使われて



③



⑤



⑥

ね。身の回りには植物でつくられたものがたくさんあります。木造の家、タンス、ギター、将棋の駒のように見た目で木を感じるものもあれば、ティッシュペーパーやセロハンテープ(同⑥)のように原料が植物由来とは分かりにくいものもあります。特にセロハンは、透明なのでプラスチック由来と思いついて、大人になって初めて木材パルプや天然ゴムが主原料であることを知りました。ちなみに、この記事のために、シユロを原材料とするタワシ、ホウキを購入しました。それぞれい

くらでしょうか？タワシ1200円、ミニホウキ2800円でした。希少価値があるのかもしれませんが、実際に触ってみると手触りが優しい上に使い勝手がよく、その価値を感じました。以前紹介した「バショウ」、「桜の咲くソテツ」、今回の「シユロ」は全て大阪成蹊大学から徒歩5分以内の場所で発見しました。植物だけでなく、身近なところから皆さんの学びが広がっています。視点を変えて散歩をすると楽しい発見があるかもしれません。まずは、身近にあるシユロの木を探すことから始めてみてください。